

催開時

令和8年度特別資料展

開館時間 = 9:30~17:00(入館は開館の30分前まで) **観覧無料**
休館日 = 毎週月曜日(ただし9月21日・10月12日は開館し、翌平日休館)
<11月3日(火・祝)は観覧無料デー>常設展も無料でご覧いただけます

牧を駆け巡った野馬奉行・牧士・
村人たちの実像に迫る

展示室2

牧を駆け巡る

野馬奉行・牧士・村人たち



後援 = (公財)松戸市文化振興財団、(一社)松戸市観光協会、
北総線沿線地域活性化協議会、
協力 = 京成電鉄株式会社、流鉄株式会社



学芸員講演会
「縄文人の生存戦略」
日時=10月24日④ 13:00~15:00
講師=当館学芸員 会場=博物館講堂
定員=75名(抽選) 申込=事前申込制
お申込み方法は下記をご覧ください

ワークショップ
「縄目もようのヒミツ」
縄を作って、粘土にもようをつけよう
日時=9月19日④~9月23日⑥、
11月7日④、11月8日⑥
10:00~16:00
会場=企画展示室ロビー
申込不要(上記時間内、随時ご参加いただけます)

ギャラリートーク
9月19日④、9月20日⑥、
9月22日⑥、10月11日⑥、
10月24日④、11月3日⑥、
11月7日④、11月8日⑥
(60分程度)

**こどものための
ギャラリートーク**
9月21日⑥、9月23日⑥、
10月10日④、10月25日⑥
(30分程度) *大人の方も参加できます

ギャラリートーク/こどものためのギャラリートーク共通
時間=各日①11:00~②13:30~
*10月24日は11:00~のみ
講師=当館学芸員 会場=企画展示室
申込不要(時間になりましたら企画展示室入口にお越しください)

牧を駆ける
関連イベント

学芸員講演会
「古文書からさぐる
松戸周辺の牧」
日時=10月18日⑥ 13:00~15:00
講師=当館学芸員 会場=博物館講堂
定員=75名(抽選) 申込=事前申込制
お申込み方法は下記をご覧ください

ご好評につき今年も!
クッキー販売

小金五牧では全ての一歳馬に、印西牧はひょうたん、高田台牧は琴柱、上野牧は笠、中野牧はチドリ、下野牧は輪ちがいの焼印を押して見分けました。特別資料展を記念して、今回は小金牧の焼印にちなんだ模様のクッキーを販売します。



ギャラリートーク
9月19日④、9月20日⑥、
9月21日⑥、9月23日⑥、
10月3日④、10月4日⑥、10月12日⑥、
10月17日④、10月18日⑥、10月31日④、
11月1日⑥、11月8日⑥
各日①10:00~②14:30~(40分程度)
*10月18日は15:30~のみ
会場=企画展示室
講師=当館学芸員
申込不要
(時間になりましたら企画展示室入口にお越しください)



博物館へ来る途中にこんな発見も!

金ヶ作陣屋跡標柱(松戸市常盤平)
八柱新八柱駅から北東に約400メートル
進んだ辺りに、金ヶ作陣屋がありました。
敷地は東西約200メートル、
南北約150メートルで、役宅のほか、
裁判をおこなう白洲、
野馬を囲っておく場所などがありました。
八柱さくら通りには、
陣屋前の標柱が立っています。

お申込み方法
当館ホームページにてご確認ください。応募者多数の場合は抽選になります。イベント内容はやむを得ず変更になる場合がございます。最新の情報をご確認のうえご応募ください。

交通案内
①京成電鉄松戸線「八柱駅」・JR武蔵野線「新八柱駅」下車、徒歩15分。または京成バス千葉ウエスト小金原団地循環・バス案内所行か新松戸駅行「森のホール21・公園中央口」下車すぐ。
②JR常磐線・武蔵野線「新松戸駅」下車、京成バス千葉ウエスト八柱駅行「森のホール21・公園中央口」下車。地下道通ってすぐ。

駐車場のご案内
来館者専用の駐車場はございませんので、21世紀の森と広場の有料駐車場をご利用ください。(障害者専用駐車場有り。詳しくはお問い合わせください)



当館HPはこちら
https://www.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/

松戸市立博物館

〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀671 TEL.047-384-8181

同展2

松戸市立博物館

2026.9.19^{Sat}-11.8^{Sun}

展示室1

人びとは生活スタイルを選び
環境に適応しながら生きのびた

てきおう!

先史松戸の生存戦略





深鉢形土器 (子と清水遺跡)

深鉢形土器 (子と清水遺跡)

深鉢形土器 (根木内遺跡)

深鉢形土器 (中峠遺跡)



木木だ！クリの木をふやそう

縄文時代の人びとは環境を利用しやすいように、積極的に作り変えていたこともわかってきました。土の中に残された花粉を分析すると、縄文時代のムラのまわりでは、クリやトチノキが自然ではありえないほど急激に増えていたのです。クリやトチノキは食料としても木材としても重要な植物だったので、利用しやすいようにわざと増やしたのでしょう。

松戸で人が暮らし始めてから3万年。寒くなったり、暖かくなったり、海が広がったり。人びとをとりまく生態環境は長い時間の中でうつりかわってきました。旧石器・縄文時代の人びとは食べ物や道具の素材を森や海から手に入れて生活していたので、変化のたびに生活スタイルを選択し、環境に適應(てきおう)しながら生きのびました。松戸でみつかった土器や石器と近年の研究成果をつかって、環境とうまくつきあいながら生きた人びとの生存戦略を紹介します。

縄文時代

先史松戸の生存戦略

竪穴住居内の貝層 (幸田貝塚、縄文時代前期)



海だ！貝をひろいにいこう

今から約6000年前の縄文時代前期は現在よりも海面が高く、松戸にも海が入り込んでいました。この現象を「縄文海進」とよんでいます。海の資源が利用しやすい環境だったので、当時の海岸沿いにムラがつくられ、食べたあとの貝がらなどをすてた貝塚ができました。中でも幸田貝塚ではたくさんの竪穴住居跡がみつかり、大きなムラだったことがわかっています。



深鉢形土器 (幸田貝塚) 重要文化財

片口付深鉢形土器 (幸田貝塚) 重要文化財

貝刃 (幸田貝塚) 重要文化財

さむい！動物をおいかけよう

今から約1万1000年前までは、氷期といって地球全体が現在よりも寒い気候でした。木の実がとれる植物が少ない環境なので、狩りで手に入れる動物の肉が重要です。狩りには石器が欠かせませんが、千葉では石器作りに適した石があまりとれません。そこで、貴重な石材をできるだけムダなくつかって石器をつくる技術が開発されました。



東内野型尖頭器 (境外II遺跡)

尖頭器 (子と清水遺跡)



深鉢形土器 (幸田貝塚) 重要文化財



成田香取鹿嶋 下総道中細見記

金ヶ作陣屋

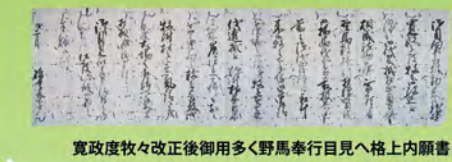
18世紀のはじめに金ヶ作陣屋(現松戸市常盤平陣屋前)が置かれ、綿貫氏から中野牧と下野牧の支配を引き継ぎます。近くには、訴訟などのため陣屋を訪れた村人たちを泊めたり、事務処理を代行する宿屋も置かれました。



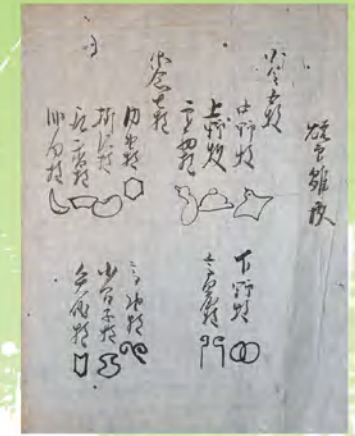
富士三十六景 下総小金原

牧を駆ける

野馬奉行・牧士・村人たち



寛政度牧々改正後御用多ク野馬奉行目見へ格上内願書



焼印雛形 (個人蔵)

野馬奉行綿貫氏

江戸時代前期、小金五牧(印西牧・高田台牧・上野牧・中野牧・下野牧)と佐倉牧を管理したのが、のちの野馬奉行、小金町の綿貫氏です。

綿貫夏右衛門木札 (個人蔵)

江戸幕府は良馬を得るために、房総の台地上に小金牧・佐倉牧・峯岡牧を設けて、野馬(野生馬)を放し飼いにしました。現松戸市域には、小金牧の一部(中野牧)が広がるだけでなく、牧を支配する野馬奉行綿貫氏の小金御殿と金ヶ作陣屋が置かれました。本展では綿貫家と千駄堀安蒜家に伝来した新出資料を中心に、牧を駆け巡った野馬奉行・牧士・村人たちの実像に迫ります。

小金牧の牧士

広大な牧で実務にあたったのが千駄堀安蒜家をはじめとする村々に住む牧士たちです。牧の見回りや野馬捕りの仕事などを担いました。18世紀に行なわれた徳川将軍の御鹿狩では牧士たちも活躍し、馬を操って獣を追い立て武士からも賞賛されました。



温故東の花 将軍家於小金原御猪狩之図



牧士の由緒書 (個人蔵)

厩馬新論



千駄堀安蒜家母屋模型 (渋谷文雄氏制作)

牧周辺の環境と村人たち

牧周辺の村々(牧付村)には、野馬捕りの人足や、野馬が村に入るのを防ぐ野馬除上手の工事などの負担がありました。江戸時代後半には、小金牧の周辺部から内へと開発が進み、生産力の低い林畑などが拓かれます。林畑の産物として燃料の鹿柴(そだ。樹の枝のこと)があり、樹々も炭や薪にしました。



質地二相渡シ申林畑證文之事 (個人蔵)